

平成28年3月期 決算説明会

株式会社N F Kホールディングス
東京証券取引所 J A S D A Q
証券コード：6494

平成28年6月

目

次

- I 会社概要
- II 平成28年3月期 決算概要
- III 平成29年3月期 業績の見通し
- IV 戦略的新製品

＜参考資料＞

- ・ 16中期経営計画

I 会社概要

1. 会社概要

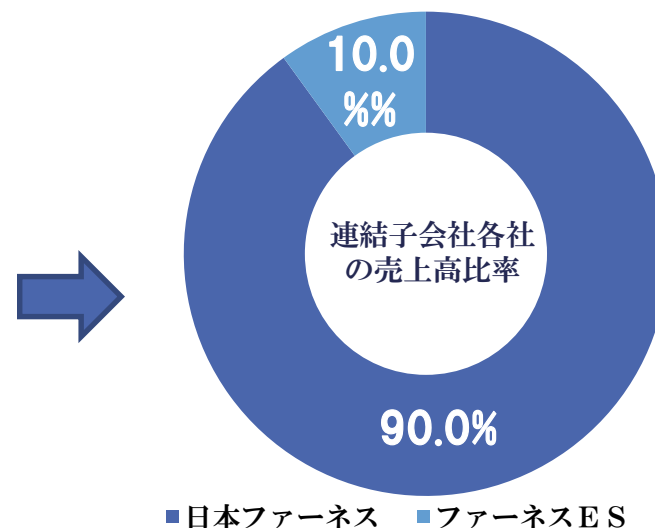
(1) 会社概要

商 号	株式会社N F Kホールディングス	事業内容	燃焼装置関連事業
本 社	横浜市鶴見区尻手2丁目 1 番53号	事業所※	横浜市鶴見区／大阪事務所／豊田事務所／静岡工場
代 表 者	代表取締役社長 関口 陽介	連結子会社	2社
設 立	1950年4月12日	持分法適用 関係会社	1社
資 本 金	2,131百万円（平成28年3月末現在）	※子会社含む	
売 上 高	1,839百万円（平成28年3月期連結）		
従 業 員	96名（平成28年3月末現在・連結）		

(2) 企業集団の構成

会社名	事業内容	売上高
日本ファーンネス株式会社	燃焼関連装置製造販売	1,654百万円
株式会社ファーンネスE S	燃焼関連装置メンテナンス	183百万円

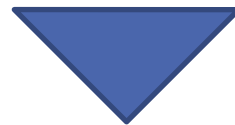
（売上高：平成28年3月期、連結消去後）



2. 当社の企業理念

NFKホールディングス 企業理念

株式会社NFKホールディングスは、長年培った燃焼技術を基に、絶え間ない努力とチャレンジによって、最先端技術を社会に提供し、地球環境保全と循環型社会の実現に貢献するとともに、株主の皆様は勿論、企業を支えるお客様や取引先、社員、地域社会等の全てのステークホルダーの繁栄を目指して事業活動を行います。



最先端技術を社会に提供し、地球環境保全と
循環型社会の実現に貢献

3. 沿革

年 月	主 な 出 来 事
昭和25年 4月	日本火熱工業材料株式会社を設立
昭和25年 6月	日本ファース工業株式会社に商号変更
昭和33年 6月	大阪事務所開設
昭和37年 8月	横浜市鶴見区に本社事務所建設
昭和38年 5月	日本証券業協会に株式を店頭登録
平成11年 6月	鶴見工場売却
平成16年 12月	ジャスダック証券取引所に上場
平成18年 10月	商号を株式会社NFKホールディングスに変更。 日本ファース株式会社(現・連結子会社)設立
平成20年 10月	株式会社ファースES(現・連結子会社)を設立
平成22年 1月	日本ファース製造株式会社を解散し、全事業を日本ファース株式会社に譲渡
平成25年 6月	日本ファース燃焼技術研究所設立

4. 当社と社会の関わり



最終製品	当社製品	最終製品	当社製品
① ビルの空調・熱源	ボイラ用バーナ	⑧ セメント	石灰焼成のためのバーナ
② アルミエンジン	アルミニウム合金熱処理のための工業炉	⑨ 水素・水素ステーション	小型水素製造装置におけるバーナ
③ アルミタイヤホイール	アルミニウム合金熱処理のための工業炉	⑩ 天然ガス	環境負荷ガス燃焼装置
④ 車のフロントガラス	ガラス曲げ加工のための加工炉	⑪ ソーラパネル	各種素材製造プロセス用加熱炉
⑤ 石油・灯油・各種石油関連製品	石油精製プロセスにおける加熱炉	⑫ 下水処理場	污泥焼却設備
⑥ 鋼材	製鉄所用の加熱炉バーナ	⑬ ごみ焼却場	焼却炉用バーナ
⑦ 食品製造工場	殺菌加熱用ボイラ用バーナ	⑭ 化学工場、ガスプラント	廃液・廃ガス無害化燃焼装置

5. 当社の事業内容



1. プラントエンジニアリング事業

- ・産業機械関連
- ・石油関連
- ・環境関連



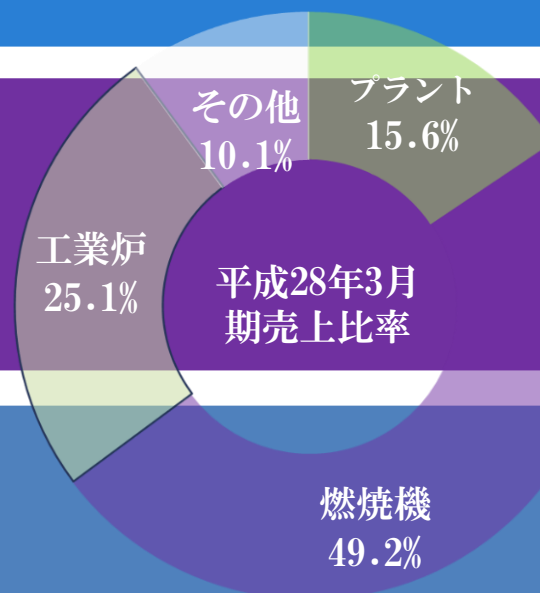
2. 燃焼機事業

- ・金属加熱関連
- ・ボイラ関連



3. 工業炉事業

- ・自動車関連
- ・金属加工炉関連



5. 当社の事業内容 プラントエンジニアリング事業

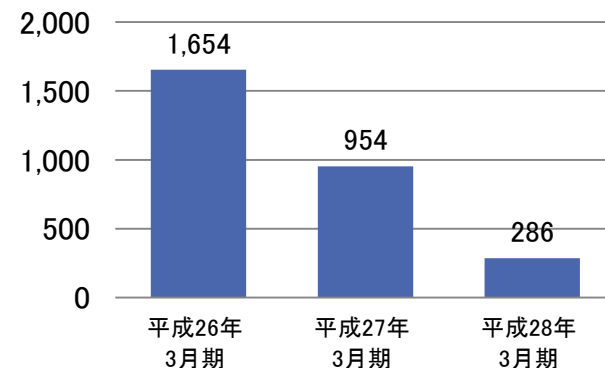
- 石油精製、石油化学、窯鋳業等の各種産業プラント用燃焼装置や加熱装置、環境に配慮した焼却設備やプロセス装置、廃液廃ガス焼却装置、また、低NO_x性に優れたロータリーキルン用バーナなどを製造・販売。

【取り扱い製品】

- 加熱炉用バーナ・ロータリーキルン用バーナ
- 熱風発生炉・加熱炉
- 廃液・排ガス・焼却設備・プロセス装置

【納入先】

- セメントメーカー
- 石油関連企業、化学関連企業
- 天然ガス関連企業



Pickup !

■廃液&廃ガス燃焼装置

現在、当社の主力商品となっており、天然ガスプラントや化学工場などで発生する廃ガス&廃液を無害化する環境装置となっている。



5. 当社の事業内容 プラントエンジニアリング事業

ロータリーキルン燃焼状態



特殊熱風発生炉(高压型)



直火式熱風発生炉



ロータリーキルンバーナ



空気加熱炉



HRS-UXバーナ



硫黄回収装置



廃液&廃ガス燃焼装置



産業機械関連

- 【主な製品群】
ロータリーキルン・
バーナ
熱風炉
【主な販売先】
セメント関連企業

石油関連

- 【主な製品群】
空気加熱炉用バーナ
プロセスヒーター用
バーナ
【主な販売先】
石油精製企業

環境関連

- 【主な製品群】
HRS-UXバーナ
インシネレーター
小型加熱炉
【主な販売先】
化学関連企業
天然ガス採掘施設

5. 当社の事業内容 燃焼機事業

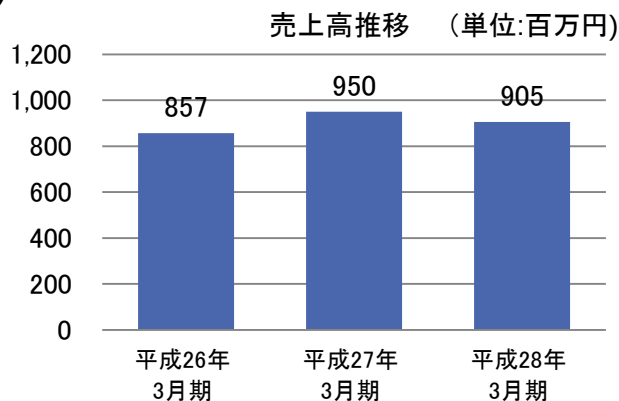
■ 高効率で低NO_x性に優れたボイラ用バーナ、各種バーナなど、最新の熱技術による製品を設計・製造・販売。

【取り扱い製品】

- ボイラ用バーナ
- ガラスエコマイザー
- ラジアントチューブバーナ

【納入先】

- ボイラメーカー
- 鉄鋼関連企業
- 窯業関連企業



Pickup !

■ 蓄熱式ラジアントチューブ燃焼システム

高温空気燃焼技術を鉄鋼用熱処理炉など各種熱処理炉に適用可能かつ低NO_xを同時達成。ラジアントチューブ用ハニカム内蔵型リジェネレイティブバーナ。

5. 当社の事業内容 燃焼機事業

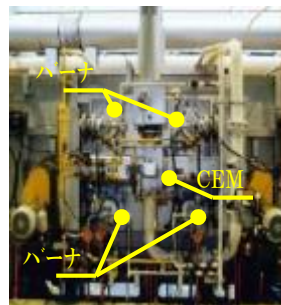
水素バーナ



ULN型低NO_xバーナ



メッキ設備用 HRSラジエントチューブバーナ



連続焼鈍設備用HRSRTバーナ



ボイラ用廃熱回収器



ガラス製熱交換器



ボイラ関連

【主な製品群】
水管ボイラ用バーナ
水素バーナ
多種燃料バーナ

【主な販売先】
大手ボイラメーカー

金属加熱炉関連

【主な製品群】
鉄鋼加熱用リジェネバーナ
ラジエントチューブバーナ

【主な販売先】
鉄鋼関連企業
窯業関連企業

鍛造加熱炉用HRS-DLバーナ



鍛造加熱炉用HRS-DLバーナ



5. 当社の事業内容 工業炉事業主力製品

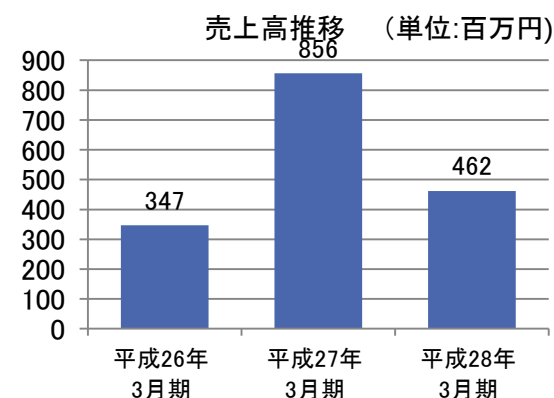
■セラミックハニカム搭載のリジェネレイティブバーナを適用した高性能工業炉を数多く提供。

【取り扱い製品】

- バスケットレス回転炉、各種連続炉
- 各種熱処理炉
- 台車型焼鈍炉

【納入先】

- 自動車メーカー、自動車部品メーカー
- 金属加工企業
- 熱処理関連企業

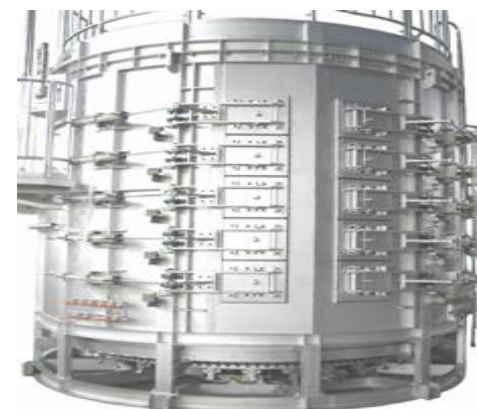


Pickup !

■バスケットレス回転炉

日本機械工業連合会 優秀省エネルギー機器 『経済産業大臣賞』受賞。バスケットレス化を実現したことにより、従来製品より42%もの省エネ化を実現。

多くの国内自動車メーカーにて採用



5. 当社の事業内容 工業炉事業

バスケットレス多段回転炉



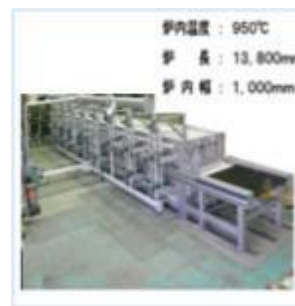
2階建AL鋳物T6熱処理炉



自動車用ガラス曲加工炉



高張力鋼板連続加熱炉



バッチ式熱処理炉(直火式)



バッチ式熱処理炉(RT式)



多目的合金鋼バッチ炉



自動車関連

【主な製品群】

バスケットレス回転炉
ガラス曲げ加工炉

【主な販売先】

大手自動車メーカー
自動車部品製造メーカー

鉄・非鉄金属熱処理関連

【主な製品群】

鉄・非鉄金属熱処理炉
熱処理用ラジエント
チューブバーナ

【主な販売先】

金属加工メーカー
熱処理関連企業

6. 当社の強み

1. 卓越した技術力

- 高温空気燃焼等の様々な新技術の発見、導入
- 多数の受賞歴
- 60年以上の経験と実績に基づく圧倒的な技術

2. カスタムメイド

- 受注生産により、顧客のきめ細かい要望に対応
- 鉄鋼、非鉄、熱処理、窯業、石油化学・天然ガスプラントなど多分野へ供給。
- 在庫リスク等は無し

3. 高い製品信用力

- 高性能の製品分野での製品供給に自信
- 高いリピートオーダー率

4. 優良な顧客基盤

- 販売先は大手優良企業が大部分を占める

5. ファブレスで柔軟な経営

- 自社工場生産は約5%。実質的なファブレス企業
- 経営的選択肢が極めて豊富

6. 豊富な知財・特許

- 今まで取得した特許は
国内特許219件、海外特許117件

Ⅱ 平成28年3月期 決算概要

1. 平成28年3月期決算概要 連結損益計算書

(単位：千円)

	平成27年3月期	平成28年3月期	前期比増減額	前期比増減率
売上高	3,010,433	1,839,799	△1,170,634	△38.9%
売上総利益(損失)	728,529	468,473	△260,056	△35.7%
販売費及び 一般管理費	642,108	611,648	△30,460	△4.7%
営業利益(損失)	86,421	△143,174	△229,595	—
経常利益(損失)	90,124	△154,931	△245,055	—
税金等調整前 当期純利益(損失)	91,808	△152,974	△244,782	—
親会社株主に帰属する当期純 利益(当期純損失)	62,694	△175,980	△238,674	—
包括利益	76,100	△183,532	△259,632	—
EBITDA	115,768	△110,778	△226,546	—

※EBITDA=(営業利益△136,224+減価償却費25,446)

2. 平成28年3月期決算概要 売上高増減の内容 案件規模別

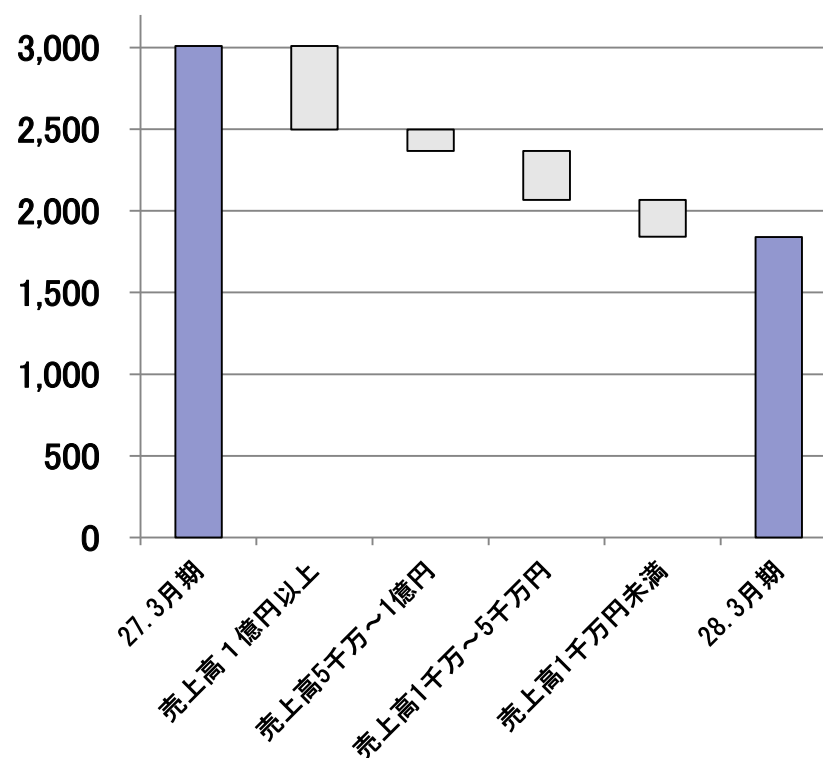
(単位：千円)

	平成27年3月期	平成28年3月期	前期比増減額	前期比増減率
売上高	3,010,433	1,839,799	△1,170,634	△38.9%

(単位：千円)

	売上高
平成27年3月期実績	3,010,433
売上高1億円以上の案件増減分	△512,190
売上高5千万円以上の案件増減分	△132,492
売上高1千万円以上の案件増減分	△299,151
売上高1千万円未満の案件増減分	△226,799
平成28年3月期実績	1,839,799

(単位：百万円)



- ・ 1億円以上の大型案件が大幅に減少
- ・ 案件規模に関係なく全般的に厳しい状況

3. 平成28年3月期決算概要 売上高増減の内容 部門別

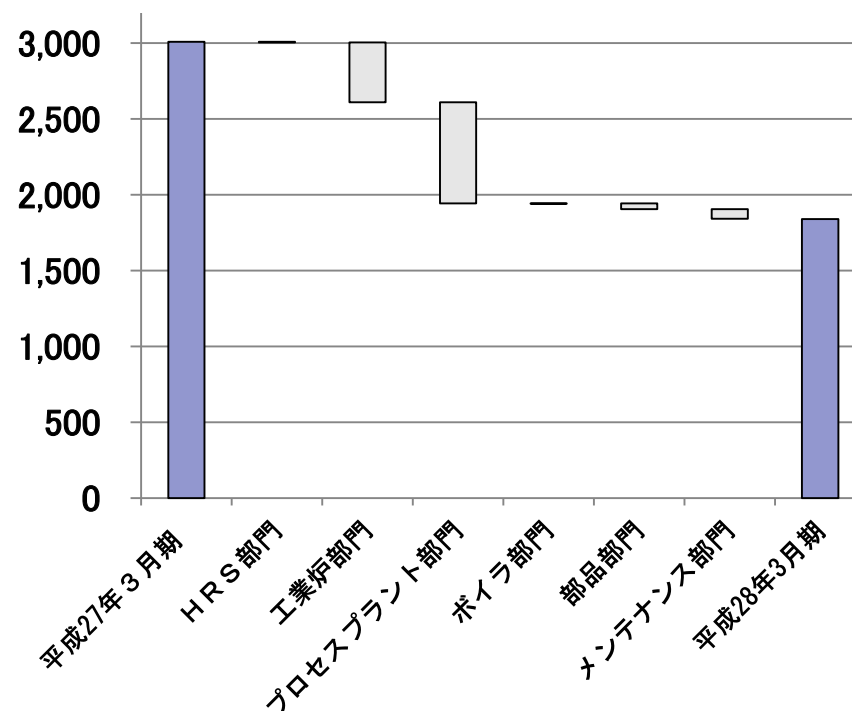
(単位：千円)

	平成27年3月期	平成28年3月期	前期比増減額	前期比増減率
売上高	3,010,433	1,839,799	△1,170,634	△38.9%

(単位：千円)

	売上高増減
平成27年3月期実績	3,010,433
H R S 部門	△5,719
工業炉部門	△394,342
プロセスプラント部門	△668,238
ボイラ部門	1,258
部品部門	△39,846
メンテナンス部門	△63,747
平成28年3月期実績	1,839,799

(単位：百万円)



- ・プロセスプラント部門が大幅に減少
原油価格の大幅な変動の影響

4. 平成28年3月期決算概要 営業利益増減の内容

(単位：千円)

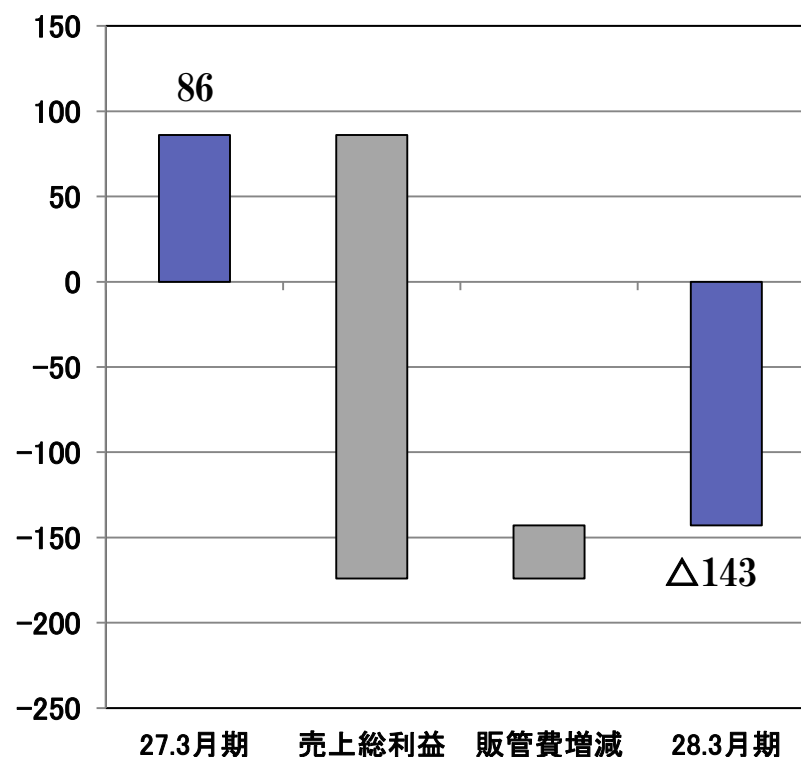
	平成27年3月期	平成28年3月期	前期比増減額	前期比増減率
営業利益(損失)	86,421	△143,174	△229,595	—

(単位：千円)

	営業利益増減
平成27年3月期実績	86,421
売上総利益の減少	△260,056
販売費及び一般管理費の減少	30,460
平成28年3月期実績	△143,174

- ・売上高減少による売上総利益の減少
- ・売上高減少に伴い、販売費及び一般管理費の圧縮

(百万円)



5. 平成28年3月期決算概要 連結貸借対照表

(単位：千円)

科 目	平成27年3月期末	平成28年3月期末	増 減
流動資産	3,125,867	2,749,568	△376,299
固定資産	1,157,598	1,115,237	△42,361
資産合計	4,283,466	3,864,806	△418,660
流動負債	789,785	608,236	△181,549
固定負債	418,901	396,040	△22,861
負債合計	1,208,686	1,004,276	△204,410
資本金	2,131,532	2,131,532	0
資本剰余金	40,280	40,280	0
利益剰余金	454,169	247,475	△206,694
自己株式	△206	△210	△4
株主資本合計	2,625,775	2,419,077	△206,698
その他の包括利益累計額合計	449,004	441,452	△7,552
純資産合計	3,074,779	2,860,529	△214,250
負債純資産合計	4,283,466	3,864,806	△418,660

【流動資産】	○ 内は前期末比増減
現金・預金	1,821百万円 (70百万円)
受取手形・売掛金	529百万円 (△478百万円)
仕掛品	186百万円 (64百万円)
繰延税金資産	26百万円 (△ 9百万円)
【固定資産】	
土地・建物等	792百万円 (△ 8百万円)
投資有価証券	108百万円 (△ 18百万円)
保険積立金	27百万円 (± 0百万円)
【流動負債】	
支払手形・買掛金	230百万円 (△280百万円)
短期借入金	10百万円 (△ 5百万円)
前受金	65百万円 (+ 24百万円)
未払税等	110百万円 (+ 85百万円)
【固定負債】	
再評価に係る繰延税金負債	196百万円 (△10百万円)
退職給付に係る負債	176百万円 (△ 12百万円)

※退職給付に係る負債については前期の退職給付引当金と比較

財務指標

	平成27年 3月期末	平成28年 3月期末
自己資本比率	71.8%	74.0%
有利子負債	36百万円	44百万円

6. 平成28年3月期決算概要 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科 目	平成27年3月期	平成28年3月期	前年同期比 増減
営業活動による キャッシュ・フロー	502,091	130,887	△371,204
投資活動による キャッシュ・フロー	△118,550	△10,151	108,399
財務活動による キャッシュ・フロー	△396,617	△36,616	360,001
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△1,160	△16,944	△15,784
現金及び現金同等物の 増減額	△14,236	67,174	81,410
現金及び現金同等物の 期首残高	1,764,367	1,750,130	△14,237
現金及び現金同等物の 期末残高	1,750,130	1,817,305	67,175

【営業活動によるキャッシュ・フロー】

税引前当期純利益	152百万円 (－)
減価償却費	25百万円 (+)
売上債権の減少	478百万円 (+)
たな卸資産の減少	47百万円 (－)
仕入債務減少	280百万円 (－)
前受金の増加	24百万円 (+)
法人税等の支払額	20百万円 (－)

【投資活動によるキャッシュ・フロー】

定期預金の増加	2百万円 (+)
有形固定資産取得支出	6百万円 (－)
保険積立金解約収入	4百万円 (+)

【財務活動によるキャッシュ・フロー】

短期借入金の減少	5百万円 (－)
配当金の支払額	30百万円 (－)

7. 平成28年3月期決算概要 決算総括

★決算総括

- 原油価格の急激な変動による経済環境悪化
- 好調な自動車関連企業向けに、下期にかけ受注が急回復するも当期売上には至らず
- 厳しい経営環境を反映して損失計上
- 配当についても誠に遺憾ながら無配へ

8. 平成28年3月期決算概要 部門別売上高

(単位：千円)

	平成27年3月期		平成28年3月期		前年比	
	売上高	構成比	売上高	構成比	金額	増減率
工業炉燃焼装置製造業	3,008,633	99.94%	1,837,999	99.90%	△1,170,634	△38.9%
H R S 部門	438,912	14.58%	433,193	23.55%	△5,719	△1.3%
工業炉部門	856,922	28.47%	462,580	25.14%	△394,342	△46.0%
プロセスプラント部門	954,682	31.71%	286,444	15.57%	△668,238	△70.0%
ボイラ部門	201,544	6.69%	202,802	11.02%	1,258	0.6%
部品部門	309,804	10.29%	269,958	14.67%	△39,846	△12.9%
メンテナンス部門	246,769	8.20%	183,022	9.95%	△63,747	△25.8%
その他の事業	1,800	0.06%	1,800	0.10%	0	0.0%
合 計	3,010,433	100.00%	1,839,799	100.00%	△1,170,634	△38.9%

9. 平成28年3月期決算概要 部門別受注状況

(単位：千円)

	平成27年3月期		平成28年3月期		前年比増減額	
	受注高	期末受注残	受注高	期末受注残	受注高	期末受注残
工業炉燃焼装置製造業	2,365,255	532,828	2,609,924	1,481,929	244,669	949,101
H R S 部門	408,397	53,380	526,562	146,749	118,165	93,369
工業炉部門	940,348	189,026	997,015	723,461	56,667	534,435
プロセスプラント部門	264,464	52,509	586,937	353,002	322,473	300,493
ボイラ部門	222,843	142,945	204,505	144,648	△18,338	1,703
部品部門	319,246	44,538	280,198	54,778	△39,048	10,240
メンテナンス部門	209,957	50,430	191,883	59,292	△18,074	8,861
その他の事業	—	—	—	—	—	—
合 計	2,365,255	532,828	2,787,099	1,481,929	421,844	949,101

Ⅲ 平成29年3月期 業績の見通し

平成29年3月期業績の見通し 業績予想（連結）

単位（百万円）

科 目	平成28年3月期	平成29年3月期	
	通期（実績）	通期（予想）	前期比
売上高	1,839	2,700	46.8%
営業利益（損失）	△143	120	—
経常利益（損失）	△154	120	—
親会社株主に帰属する 当期純利益（損失）	△175	100	—
1株当たり 当期純利益（損失）	△5.73円	3.26円	—

好調な自動車関連企業向けの受注増を背景に
業績のV字回復を見込む

IV 戰略的新製品

1. 戦略的新製品 石油加熱炉用超低NO_xバーナ

戦略的新製品 **S R X-Eバーナ**納入開始 (石油加熱炉用低NO_x型バーナ納入開始)

- ・ 海外製油所向けバーナ市場での競争力強化
- ・ 既存顧客への競合他社攻勢を排除し交換需要に対応
- ・ 国内シェア巻き返しとアジア、中東でのシェア拡大
- ・ シェア拡大によりメンテ・部品交換ベースを拡大
- ・ 日本ファーンネス燃焼技術研究所で実証実験済み



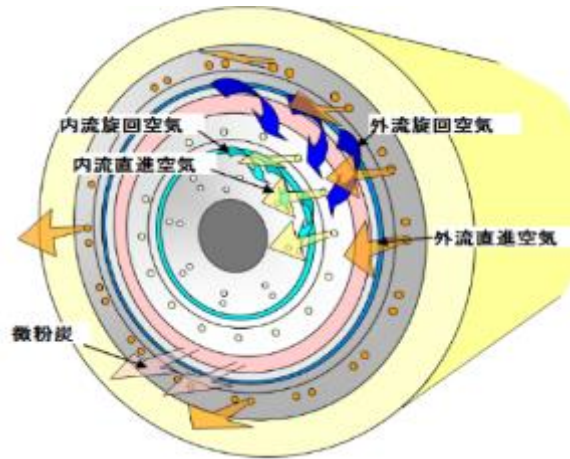
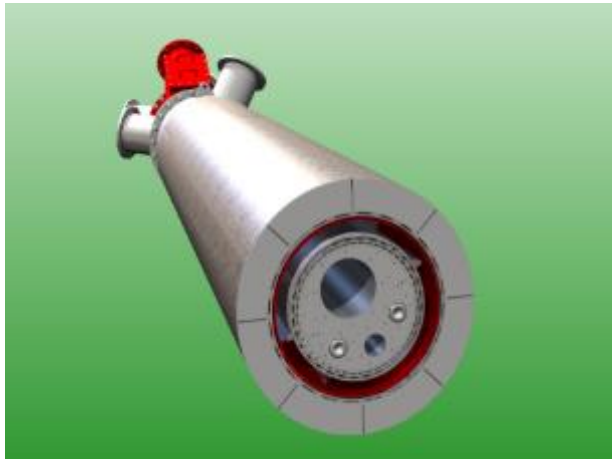
2. 戦略的新製品 NFK HiCDFバーナ (特長)

戦略的新製品 NFK HiCDFバーナ (ロータリーキルン用ハイモーメンタム 微粉炭バーナ)

旋回流及び直進流の複数の空気チャンネルにより、様々な温度パターンの火炎を実現



- ① 高い火炎制御性
- ② 高い燃焼効率
- ③ 優れた低NO_x性能



1次空気流量調整による火炎パターン変化

2. 戦略的新製品 NFK HiCDFバーナ（開発背景）

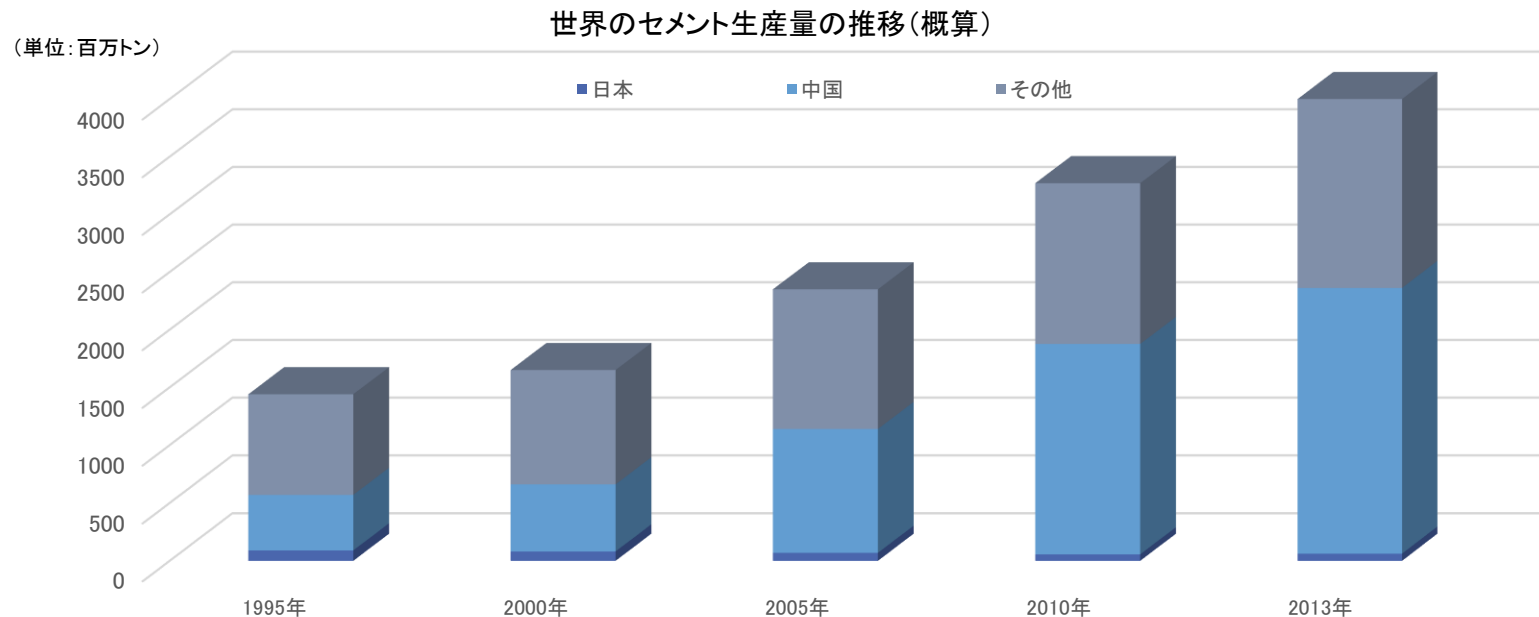
セメント生産量の推移

日本：1995年 約 1億トン/年 → 2013年 約0.6億トン/年

世界：1995年 約14億トン/年 → 2013年 約 40億トン/年

世界のセメント生産量は大幅に増加（多くの工場が新設）

（中国 約5億トン→約23億トン、インド約0.7億トン→約2.7億トン）



2. 戦略的新製品 NFK HiCDFバーナ（今後）

戦略的新製品 NFK HiCDFバーナの納入開始
(ロータリーキルン用ハイモーメント 微粉炭バーナ)

目的：成長市場でのキルンバーナの需要増加に対応

技術革新した NFK HiCDFバーナにより

- 当社旧製品ユーザーの更新需要の取り込み
- 海外顧客への欧州メーカー攻勢に対抗
- 成長市場での新規顧客獲得



将来的には年間売上高 5 億を目指す

＜参考資料＞

<参考資料>

1. オリンピア工業グループとの事業提携の活用

(1) 事業提携先であるオリンピア工業グループの製造能力を活用

- ①製造委託先の集約による管理コスト低減効果
- ②オリンピア工業の持つ資源の活用
 - ・優れた生産技術力
 - ・最新、大型の製造設備の活用による製造委託費低減効果
- ③両社共同での製造工程開発
(既定プロセスからのフィードバックによる設計改良など)

<参考資料>

2. 新技術開発体制

(1) 日本ファーマス燃烧技術研究所

宮崎県西都市に日本ファーマス燃烧技術研究所を保有。
各種大型バーナを対象にした燃烧試験システムにより
「技術のNFK」の再確立に向けて取り組んでおります。

開発実績

- ・ NFK HiCDFバーナ（ロータリーキルン用ハイモーメントムバーナ）
- ・ SRX-Eバーナ（石油加熱炉用低NO_x型バーナ）



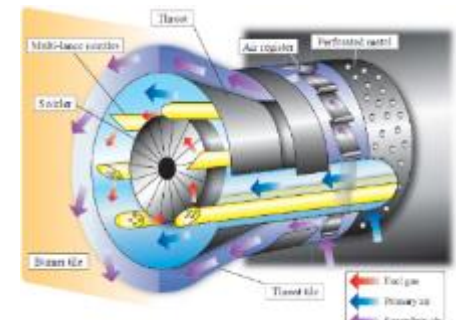
<参考資料>

3. 研究開発案件

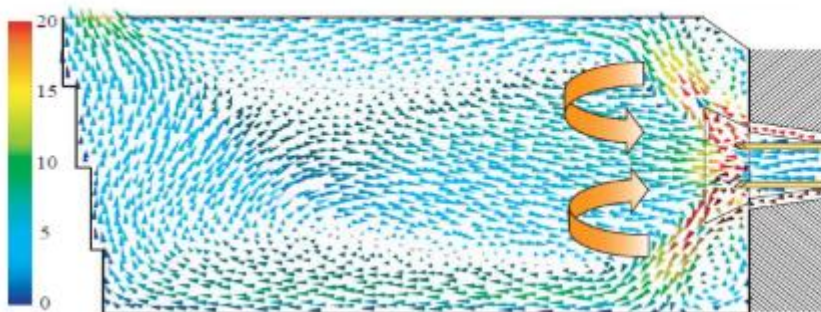
国内既存設備の更新需要キャッチアップとアジア市場開拓

(1) 大型ボイラ用高性能バーナ製品の改良開発 (水管ボイラ用新型ULX)

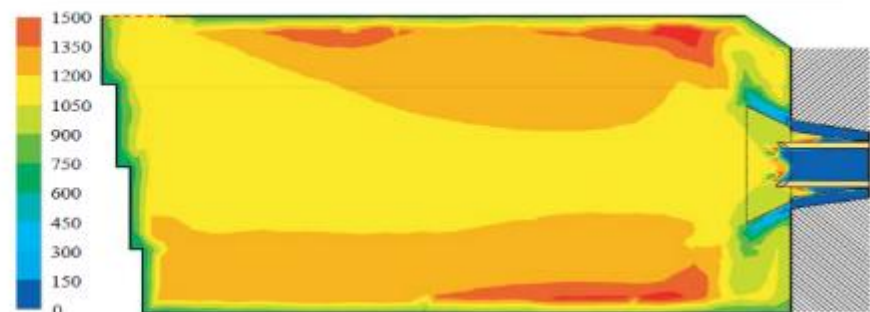
- 小型で安定的な燃烧性能と低NO_x、低COを実現した高い環境性能
- 大手ガス会社と協力して開発
→国内外でのシェア拡大のための大きな戦力
- 中国、台湾等成長市場でのシェア拡大
- 韓国のライセンサーへ新規バーナの技術供与



流速分布 [m/s]



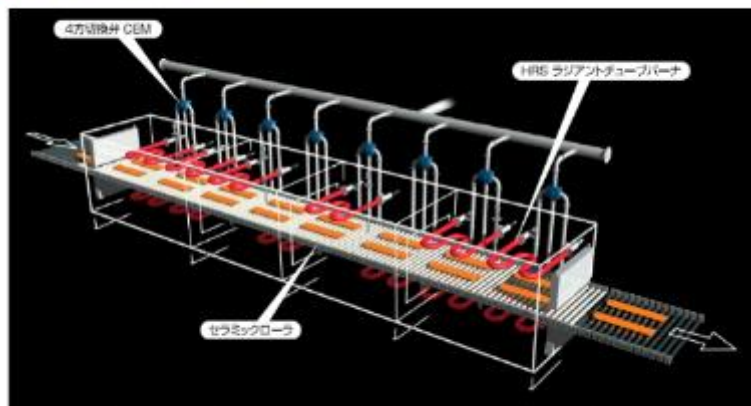
温度分布 [°C]



< 参考資料 >

(2) 高性能金属熱処理炉

リジェネバーナ採用！ ロールハース式ホットプレス加熱炉

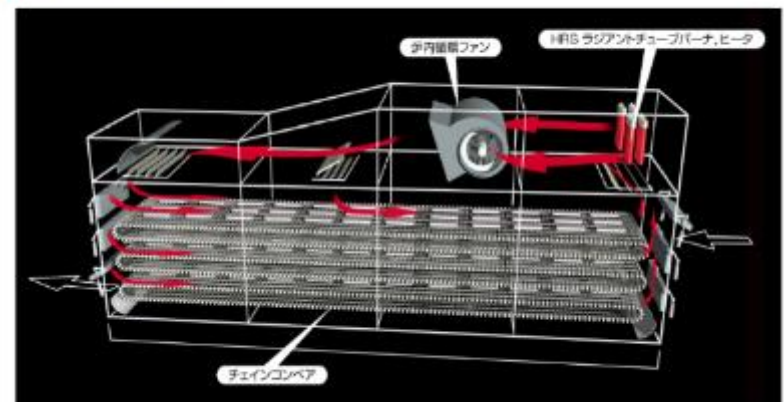


ワーク：自動車用高張力鋼板 熱源：LNG 加熱温度：930℃±5℃ 搬送方式：セラミックローラ

- バスケットを使わず、ワークを効率的に加熱ので、高い省エネルギー率を実現。
- 多段にすることで、在炉時間をキープしつつ炉長を短縮化し、炉を小型化。
- 適切な風量分配で均一加熱。

- リジェネ式ラジエントチューブバーナの採用により高い熱効率を実現。
- 耐熱強度高く、小径・細ピッチが可能なセラミックローラを用い薄板搬送可。
- 高張力鋼板のホットプレス炉に最適。

バスケットレス！ 多段コンベア式AL合金熱処理炉



ワーク：アルミ合金製品 熱源：LNG 又は 電気 加熱温度：200℃±5℃ 搬送方式：チェインコンベア

<参考資料> 業績推移

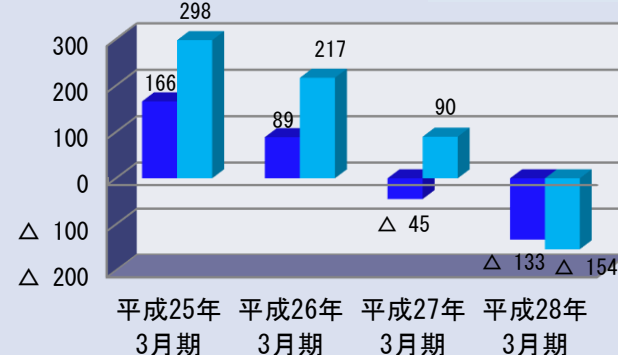
売上高

(単位:百万円)



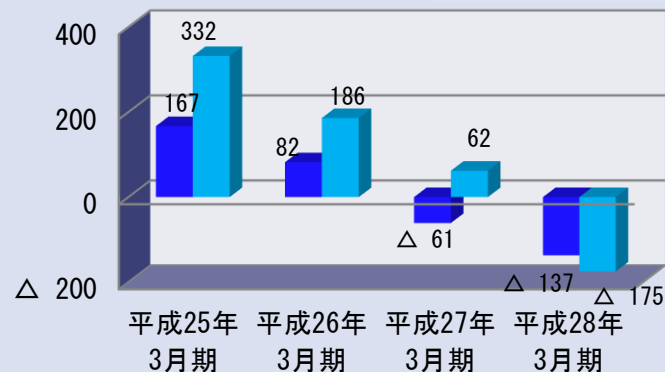
経常利益 (損失)

(単位:百万円)



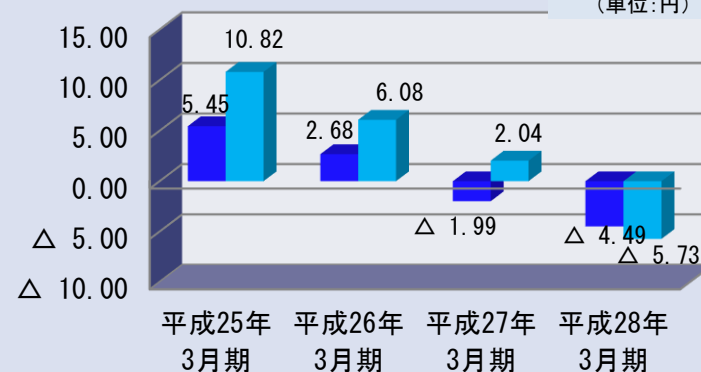
当期 (四半期) 純利益 (損失)

(単位:百万円)



1株当たり当期 (四半期) 純利益 (損失)

(単位:円)



■ 第2四半期

■ 通期

<参考資料> 業績推移

純資産

(単位:百万円)



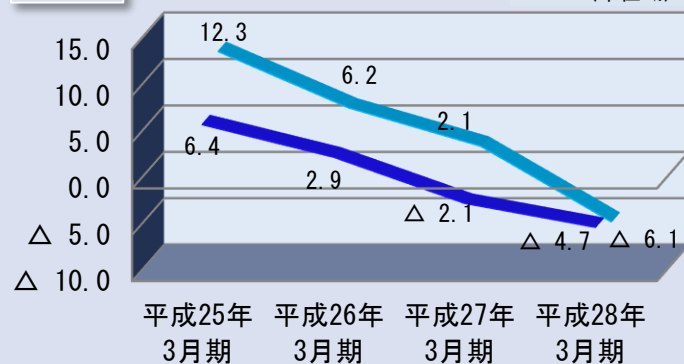
総資産

(単位:百万円)



ROE

(単位:%)



(注)次の通りROEを算出しております。

ROE=当期(四半期)純利益/(平均純資産-新株予約権-少数株主持分)

■ 第2四半期 ■ 通期

1 6 中期経営計画

「16 中期経営計画」 基本方針&重点戦略

経営基本方針

1. 燃焼装置関連事業の海外展開強化
2. 市場ニーズに対応した新製品開発
3. 安定配当の実現
4. コンプライアンス、コーポレートガバナンス重視の徹底



海外売上比率50%へ

新技術新商品の創出

国内基盤固め

トータル原価の削減



持続的成長を目指す

「16 中期経営計画」 基本戦略

海外売上比率50%へ



成長市場をキャッチアップ

- ・ 海外既存顧客に対するフォロー営業の徹底
- ・ ローカルニーズに合致する既存製品の活用
- ・ アジア市場での商流確率
- ・ 個別ニーズへの迅速なローカルフィット対応
- ・ 海外顧客へのサポート体制確立
- ・ 現地ベンダーの確保

海外顧客との信頼関係構築、NFKブランドの普及により中長期的な収益拡大を図る

新技術・新商品の創出



技術のNFKを再確立

- ・ マーケティングを意識した営業活動の徹底
- ・ 新製品開発計画への営業部門による主体的な参加
- ・ 売れる商品開発の徹底
- ・ PDCAサイクルの徹底による商品開発の効率化
- ・ 外部研究機関との積極的な連携

先達が築いた「技術のNFK」の本質に立ち返る

「16 中期経営計画」 基本戦略

国内基盤固め



国内既存顧客との関係強化によるニーズの把握

- ・国内既存顧客に対するフォロー営業の徹底
- ・強みのある商品を活かした仕掛ける営業
- ・ナレッジマネジメント強化による組織対応力の強化
- ・業務効率の向上

マーケティング体制構築により
新技術・新商品の創出、収益の持
続的拡大の基盤を固める

トータル原価の削減



高利益の実現

- ・営業活動の効率化による原価低減
- ・エンジニアリング活動の効率化による原価低減
- ・低コストを意識した、仕様や材料の見直し
- ・短納期、低コストを意識した新工法・生産技術の確立

トータル原価の削減を実現して高
利益を実現する

「16中期経営計画」 2014～2016年度 業績目標

(単位:百万円)

	平成27年 3月期(実績)	平成28年 3月期(実績)		平成27年 3月期(計画)	平成28年 3月期(計画)	平成29年 3月期(計画)	16中計期間 増額予定分
売上高	3,010	1,839		3,300	4,300	5,000	1,700
対前年増収率(%)	△5.1%	△38.9%		4.1%	30.3%	16.3%	51.5%
経常利益(損失)	90	△154		250	430	500	250
親会社株主に帰属する当期純利益(損失)	62	△175		200	350	400	200
純資産	3,074	2,860		3,199	3,519	3,859	660
1株利益(円)	2.04	△5.73		6.51	11.39	13.02	6.51
1株純資産(円)	100.11	93.14		104.15	114.57	125.64	21.49
配当(円)	1.00	—		1.00	2.00	3.00	2.00

本資料に関するお問い合わせ

株式会社NFKホールディングス I R企画室

TEL：045-575-8000

E-MAIL：ir@nfk-hd.co.jp

★注意事項 本資料に記載されている計画・戦略・見通し及びその他の歴史的事実でないものは、将来に関する見通しであり、これらは現在入手可能な期待・見積り・予想に基づいております。これらの期待・見積り・予想は経済情勢や競争環境の変化等の潜在的なリスク・不確定要素、仮定の影響を受けますので、実際の実績は見通しとは異なる可能性がございます。

また、当社は新しい情報・将来の出来事などに基づきこれらの将来予測を更新する責務を負うものではありません。

